

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校 広島工学院大学校
設置者名	学校法人 古沢学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	自動車整備科 1級自動車整備士コース	夜・通信	352.8 時間	320 時間	
	自動車整備科 2級自動車整備士コース	夜・通信	163.8 時間	160 時間	
	自動車車体整備科	夜・通信	81 時間	80 時間	
	電気・通信施工学科	夜・通信	228 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校 ホームページ → 情報公開 下記URLから閲覧可能 http://www.furusawa.com/kogaku/disclosure/
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校 広島工学院大学校
設置者名	学校法人 古沢学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

本校 ホームページ → 情報公開 下記URLから閲覧可能 http://www.furusawa.com/kogaku/disclosure/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元 株式会社 顧問 元 広島市 助役	2022. 3. 18 ～ 2024. 3. 17	組織運営体制への チェック機能
非常勤	株式会社 代表取締役	2022. 3. 18 ～ 2024. 3. 17	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校 広島工学院大学校
設置者名	学校法人 古沢学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○授業計画(シラバス)の作成過程 毎年、各学科でシラバス掲載内容の確認および修正を行い、各学科長が到達目標等に沿った適切な授業スケジュールであるかを精査している。</p> <p>○授業計画の作成・公表時期 3月下旬までに作成し、公表している。</p> <p>○授業科目の公表方法 入学準備説明会(3月中旬)にて、簡易シラバスを配布。入学後、正式なものを配布している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本校 ホームページ → 情報公開 下記URLから閲覧可能 http://www.furusawa.com/kogaku/disclosure/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果の評価はシラバスの目的・目標に到達できたかどうか、予めシラバスで示した各授業科目における評価方法(例:期末試験60%・単元試験20%・授業態度20%)において、「優」「良」「可」「不可」の4段階評価で行う。 特に、履修認定の判断基準となる期末試験は各期末(9月・3月)に実施する。合格基準は原則として、学業成績60点以上を合格とし、59点以下を不合格としている。但し、自動車整備科1級自動車整備士コースの3年次・4年次においては学業成績80点以上を合格とし、79点以下は不合格としている。合格者はその科目を履修したと認められている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学業成績評定の客観的な指標については、平素の学習状況（態度・取組・提出物）や期末試験を総合して100点満点をもって示し、評定は優、良、可及び不可の4種類とし、区分は下記のとおりとする。</p> <p style="text-align: center;">優：80点以上 良：70～79点 可：60～69点 不可：59点以下</p> <p>但し、自動車整備科1級自動車整備士コースの3年次・4年次の評定については別に下記のとおりとしている。</p> <p style="text-align: center;">優：90点以上 良：85～89点 可：80～84点 不可：79点以下</p> <p>成績の分布状況については履修科目で取得した評価点の合計を履修科目数で割って平均値を算出し、学生個人の成績順位等について把握をしている。また、前期・後期に行われる単元試験および期末試験の結果において、学生個々人の結果と学年の平均や、試験ごとにおける学生の順位の推移を示した図表を学生に配布している。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>本校 ホームページ → 情報公開</p> <p>下記URLから閲覧可能</p> <p style="text-align: center;">http://www.furusawa.com/kogaku/disclosure/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校が掲げる「心技一体」の教育理念に基づき、次の方針に従って卒業を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「調和」「啓発」「創造」に基づいた教育方針により、本校の定める教育課程を修め、専門的な知識および技能と応用力を習得した者。 2. 教育課程において高い人間力（自主性・主体性）を発揮し、博愛精神に満ちた慈愛を持ち、共に協力し創造していく喜びと感動を追求し続けた者。 <p>また、卒業年度末に実施する卒業試験に合格することを前提とし、全教職員が出席する卒業判定会議において卒業の認定を行う。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>本校 ホームページ → 情報公開</p> <p>下記URLから閲覧可能</p> <p style="text-align: center;">http://www.furusawa.com/kogaku/disclosure/</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校 広島工学院大学校
設置者名	学校法人 古沢学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	本校ホームページ → 財務情報の公開 http://www.hcu.ac.jp/guide/zaimu.html
収支計算書又は損益計算書	本校ホームページ → 財務情報の公開 http://www.hcu.ac.jp/guide/zaimu.html
財産目録	本校ホームページ → 財務情報の公開 http://www.hcu.ac.jp/guide/zaimu.html
事業報告書	本校ホームページ → 財務情報の公開 http://www.hcu.ac.jp/guide/zaimu.html
監事による監査報告（書）	本校ホームページ → 財務情報の公開 http://www.hcu.ac.jp/guide/zaimu.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備科 1級自動車整備士コース		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	4141.8 単位時間/単位	777.6 単位時間 /単位	72.0 単位時間 /単位	2343.6 単位時間 /単位	3193.2 単位時間/単位	
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
75人		1人	0人	2人	0人	2人	

※2022年度から募集停止

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
○授業計画（シラバス）の作成過程 毎年、各学科でシラバス掲載内容の確認および修正を行い、各学科長が到達目標等に沿った適切な授業スケジュールであるかを精査している。
○授業計画の作成・公表時期 3月下旬までに作成し、公表している。
○授業科目の公表方法 入学後のオリエンテーション時に配布している。

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学修成果の評価はシラバスの目的・目標に到達できたかどうか、予めシラバスで示した各授業科目における評価方法（例：期末試験 60%・単元試験 20%・授業態度 20%）において、「優」「良」「可」「不可」の4段階評価で行う。</p> <p>特に、履修認定の判断基準となる期末試験は各期末（9月・3月）に実施する。合格基準は原則として、学業成績 60 点以上を合格とし、59 点以下を不合格としている。但し、自動車整備科 1 級自動車整備士コースの 3 年次・4 年次においては学業成績 80 点以上を合格とし、79 点以下は不合格としている。合格者はその科目を履修したと認めている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>○進級認定</p> <p>次に定めた要件をすべて満たした学生について認める。</p> <p>(1) 当該学科・コースの、当該年度における出席率が、90%以上であること。但し、自動車整備科 1 級自動車整備士コースの 3 年次においては、95%以上とする。</p> <p>(2) 当該学科・コースの、当該年度における履修すべき授業科目の評定に、すべて「不可」がないこと。</p> <p>(3) 本校の主催する研修（特別教育活動を含む）を、すべて修了していること。</p> <p>(4) 未納金のないこと。</p> <p>(5) 自動車整備科 1 級自動車整備士コースの 3 年次への進級は、2 級ガソリン・ジーゼル自動車整備士の両方の資格を取得見込みである者とする。但し、取得できない場合は、進級を取り消すものとし、前学年に留まるものとする。この場合において、修了した授業科目は全て有効とする。</p> <p>○卒業認定</p> <p>上記 (1) から (4) までの項目に加え、「各学科・コースの修業年限に達している」者に卒業を認めるものとし、本校が掲げる「心技一体」の教育理念に基づき、次の方針に従って卒業を認定する。</p> <p>1. 「調和」「啓発」「創造」に基づいた教育方針により、本校の定める教育課程を修め、専門的な知識および技能と応用力を習得した者。</p> <p>2. 教育課程において高い人間力（自主性・主体性）を発揮し、博愛精神に満ちた慈愛を持ち、共に協力し創造していく喜びと感動を追求し続けた者。</p> <p>また、卒業年度末に実施する卒業試験に合格することを前提とし、全教職員が出席する卒業判定会議において卒業の認定を行う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>長期欠席・遅刻が多発する学生については、電話フォロー・個別面談・保護者面談・校長面談実施後、指導を行い、再発を防ぐ。生活指導については、健康管理・挨拶・マナー・生活改善等をクラス担任より日常的に指導している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
2 人 (100%)	0 人 (0.0%)	2 人 (100%)	0 人 (0.0%)
（主な就職、業界等） 自動車販売会社 自動車整備会社			
（就職指導内容） 定期的にディーラー各社のセミナーを開き、各社の概要を説明いただいている。その上で学生一人ひとりの希望就職先を調査し、進路指導担当者および担任を中心に会社訪問や面接試験等の指導を繰り返し行っている。また、11月には関連企業の方々を招いて合同の就職セミナーを開催し、学生の就職意欲を一層高められるよう努めている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 1級小型自動車整備士・CNG特別講習、2級自動車整備士（ガソリン・ジーゼル） 中古自動車査定士、損害保険募集人、低圧電気取扱業務、研削砥石取替業務 タイヤ空気充填士、ガス溶接技能、アーク溶接技能、危険物取扱者（乙4他） ソーシャル検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3 人	0 人	0.0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 中退防止については、素行・態度等の変化を早めに察知し、声掛け・面談・家庭連絡を密に実施している。また、クラスの状況や学生の状況は職員会議にて共有し、担任・学科長およびその他教員が連携し、組織的に対応している。 中退者支援については、経済的問題で退学又は進学を断念せざるを得ない場合の就職斡旋している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	自動車整備科 2級自動車整備士コース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2124.0 単位時間/単位	711.0 単位時間 /単位	72.0 単位時間 /単位	1341.0 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2124.0 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
190人	51人	10人	4人	0人	4人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>○授業計画（シラバス）の作成過程 毎年、各学科でシラバス掲載内容の確認および修正を行い、各学科長が到達目標等に沿った適切な授業スケジュールであるかを精査している。</p> <p>○授業計画の作成・公表時期 3月下旬までに作成し、公表している。</p> <p>○授業科目の公表方法 入学後のオリエンテーション時に配布している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価はシラバスの目的・目標に到達できたかどうか、予めシラバスで示した各授業科目における評価方法（例：期末試験 60%・単元試験 20%・授業態度 20%）において、「優」「良」「可」「不可」の4段階評価で行う。 特に、履修認定の判断基準となる期末試験は各期末（9月・3月）に実施する。合格基準は原則として、学業成績 60点以上を合格とし、59点以下を不合格としている。但し、自動車整備科1級自動車整備士コースの3年次・4年次においては学業成績 80点以上を合格とし、79点以下は不合格としている。合格者はその科目を履修したと認めている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>○進級認定 次に定めた要件をすべて満たした学生について認める。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）当該学科・コースの、当該年度における出席率が、90%以上であること。但し、自動車整備科1級自動車整備士コースの3年次においては、95%以上とする。 （2）当該学科・コースの、当該年度における履修すべき授業科目の評定に、すべて「不可」がないこと。 （3）本校の主催する研修（特別教育活動を含む）を、すべて修了していること。 （4）未納金のないこと。 （5）自動車整備科1級自動車整備士コースの3年次への進級は、2級ガソリン・ディーゼル自動車整備士の両方の資格を取得見込みである者とする。但し、取得できない場合は、進級を取り消すものとし、前学年に留まるものとする。この場合において、修了した授業科目は全て有効とする。

○卒業認定

上記(1)から(4)までの項目に加え、「各学科・コースの修業年限に達している」者に卒業を認めるものとし、本校が掲げる「心技一体」の教育理念に基づき、次の方針に従って卒業を認定する。

1. 「調和」「啓発」「創造」に基づいた教育方針により、本校の定める教育課程を修め、専門的な知識および技能と応用力を習得した者。
2. 教育課程において高い人間力(自主性・主体性)を発揮し、博愛精神に満ちた慈愛を持ち、共に協力し創造していく喜びと感動を追求し続けた者。

また、卒業年度末に実施する卒業試験に合格することを前提とし、全教職員が出席する卒業判定会議において卒業の認定を行う。

学修支援等

(概要)

長期欠席・遅刻が多発する学生については、電話フォロー・個別面談・保護者面談・校長面談実施後、指導を行い、再発を防ぐ。生活指導については、健康管理・挨拶・マナー・生活改善等をクラス担任より日常的に指導している。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
33 人 (100%)	8 人 (24.2%)	25 人 (75.8%)	0 人 (0.0%)

(主な就職、業界等)

自動車販売会社 自動車整備会社

(就職指導内容)

定期的にディーラー各社のセミナーを開き、各社の概要を説明いただいている。その上で学生一人ひとりの希望就職先を調査し、進路指導担当者および担任を中心に会社訪問や面接試験等の指導を繰り返し行っている。また、11月には関連企業の方々を招いて合同の就職セミナーを開催し、学生の就職意欲を一層高められるよう努めている。

(主な学修成果(資格・検定等))

2級自動車整備士(ガソリン・ジーゼル)、中古自動車査定士、損害保険募集人
低圧電気取扱業務、研削砥石取替業務、タイヤ空気充填士、ガス溶接技能
アーク溶接技能、危険物取扱者(乙4他)、ソーシャル検定

(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63 人	4 人	6.3 %
(中途退学の主な理由) ・進路変更 ・学習意欲の喪失		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止については、素行・態度等の変化を早めに察知し、声掛け・面談・家庭連絡を密に実施している。また、クラスの状況や学生の状況は職員会議にて共有し、担任・学科長およびその他教員が連携し、組織的に対応している。 中退者支援については、経済的問題で退学又は進学を断念せざるを得ない場合の就職斡旋している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車車体整備科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1000.8 単位時間/単位	259.2 単位時間 /単位		741.6 単位時間 /単位		
			1000.8 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
25 人		7 人	0 人	1 人	0 人	1 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ○授業計画 (シラバス) の作成過程 毎年、各学科でシラバス掲載内容の確認および修正を行い、各学科長が到達目標等に沿った適切な授業スケジュールであるかを精査している。 ○授業計画の作成・公表時期 3月下旬までに作成し、公表している。 ○授業科目の公表方法 入学後のオリエンテーション時に配布している。
成績評価の基準・方法
(概要) 学修成果の評価はシラバスの目的・目標に到達できたかどうか、予めシラバスで示した各授業科目における評価方法 (例: 期末試験 60%・単元試験 20%・授業態度 20%) において、「優」「良」「可」「不可」の4段階評価で行う。 特に、履修認定の判断基準となる期末試験は各期末 (9月・3月) に実施する。合格基準は原則として、学業成績 60 点以上を合格とし、59 点以下を不合格としている。但し、自動車整備科 1 級自動車整備士コースの 3 年次・4 年次においては学業成績 80 点以上を合格とし、79 点以下は不合格としている。合格者はその科目を履修したと認めている。

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>○進級認定</p> <p>次に定めた要件をすべて満たした学生について認める。</p> <p>(1) 当該学科・コースの、当該年度における出席率が、90%以上であること。但し、自動車整備科1級自動車整備士コースの3年次においては、95%以上とする。</p> <p>(2) 当該学科・コースの、当該年度における履修すべき授業科目の評定に、すべて「不可」がないこと。</p> <p>(3) 本校の主催する研修（特別教育活動を含む）を、すべて修了していること。</p> <p>(4) 未納金のないこと。</p> <p>(5) 自動車整備科1級自動車整備士コースの3年次への進級は、2級ガソリン・ジーゼル自動車整備士の両方の資格を取得見込みである者とする。但し、取得できない場合は、進級を取り消すものとし、前学年に留まるものとする。この場合において、修了した授業科目は全て有効とする。</p> <p>○卒業認定</p> <p>上記(1)から(4)までの項目に加え、「各学科・コースの修業年限に達している」者に卒業を認めるものとし、本校が掲げる「心技一体」の教育理念に基づき、次の方針に従って卒業を認定する。</p> <p>1. 「調和」「啓発」「創造」に基づいた教育方針により、本校の定める教育課程を修め、専門的な知識および技能と応用力を習得した者。</p> <p>2. 教育課程において高い人間力（自主性・主体性）を発揮し、博愛精神に満ちた慈愛を持ち、共に協力し創造していく喜びと感動を追求し続けた者。</p> <p>また、卒業年度末に実施する卒業試験に合格することを前提とし、全教職員が出席する卒業判定会議において卒業の認定を行う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>長期欠席・遅刻が多発する学生については、電話フォロー・個別面談・保護者面談・校長面談実施後、指導を行い、再発を防ぐ。生活指導については、健康管理・挨拶・マナー・生活改善等をクラス担任より日常的に指導している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0.0%)	2人 (100%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等)			
自動車販売会社 自動車整備会社			
(就職指導内容)			
定期的にディーラー各社のセミナーを開き、各社の概要を説明いただいている。その上で学生一人ひとりの希望就職先を調査し、進路指導担当者および担任を中心に会社訪問や面接試験等の指導を繰り返し行っている。また、11月には関連企業の方々を招いて合同の就職セミナーを開催し、学生の就職意欲を一層高められるよう努め			

ている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 自動車車体整備士、有機溶剤作業主任者
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
2 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止については、素行・態度等の変化を早めに察知し、声掛け・面談・家庭連絡を密に実施している。また、クラスの状況や学生の状況は職員会議にて共有し、担任・学科長およびその他教員が連携し、組織的に対応している。 中退者支援については、経済的問題で退学又は進学を断念せざるを得ない場合の就職斡旋している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	電気・通信施工学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1863.0 単位時間/単位	829.5 単位時間 /単位	222.0 単位時間 /単位	1012.5 単位時間 /単位	単位時間 /単位	
		2064.0 単位時間/単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		10 人	1 人	内数 2 人	内数 3 人	内数 5 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ○授業計画 (シラバス) の作成過程 毎年、各学科でシラバス掲載内容の確認および修正を行い、各学科長が到達目標等に沿った適切な授業スケジュールであるかを精査している。 ○授業計画の作成・公表時期 3月下旬までに作成し、公表している。 ○授業科目の公表方法 入学後のオリエンテーション時に配布している。

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学修成果の評価はシラバスの目的・目標に到達できたかどうか、予めシラバスで示した各授業科目における評価方法(例: 期末試験 60%・単元試験 20%・授業態度 20%)において、「優」「良」「可」「不可」の4段階評価で行う。</p> <p>特に、履修認定の判断基準となる期末試験は各期末(9月・3月)に実施する。合格基準は原則として、学業成績 60 点以上を合格とし、59 点以下を不合格としている。但し、自動車整備科 1 級自動車整備士コースの 3 年次・4 年次においては学業成績 80 点以上を合格とし、79 点以下は不合格としている。合格者はその科目を履修したと認めている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>○進級認定</p> <p>次に定めた要件をすべて満たした学生について認める。</p> <p>(1) 当該学科・コースの、当該年度における出席率が、90%以上であること。但し、自動車整備科 1 級自動車整備士コースの 3 年次においては、95%以上とする。</p> <p>(2) 当該学科・コースの、当該年度における履修すべき授業科目の評定に、すべて「不可」がないこと。</p> <p>(3) 本校の主催する研修(特別教育活動を含む)を、すべて修了していること。</p> <p>(4) 未納金のないこと。</p> <p>(5) 自動車整備科 1 級自動車整備士コースの 3 年次への進級は、2 級ガソリン・ジーゼル自動車整備士の両方の資格を取得見込みである者とする。但し、取得できない場合は、進級を取り消すものとし、前学年に留まるものとする。この場合において、修了した授業科目は全て有効とする。</p> <p>○卒業認定</p> <p>上記(1)から(4)までの項目に加え、「各学科・コースの修業年限に達している」者に卒業を認めるものとし、本校が掲げる「心技一体」の教育理念に基づき、次の方針に従って卒業を認定する。</p> <p>1. 「調和」「啓発」「創造」に基づいた教育方針により、本校の定める教育課程を修め、専門的な知識および技能と応用力を習得した者。</p> <p>2. 教育課程において高い人間力(自主性・主体性)を発揮し、博愛精神に満ちた慈愛を持ち、共に協力し創造していく喜びと感動を追求し続けた者。</p> <p>また、卒業年度末に実施する卒業試験に合格することを前提とし、全教職員が出席する卒業判定会議において卒業の認定を行う。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>長期欠席・遅刻が多発する学生については、電話フォロー・個別面談・保護者面談・校長面談実施後、指導を行い、再発を防ぐ。生活指導については、健康管理・挨拶・マナー・生活改善等をクラス担任より日常的に指導している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 (100%)	0 人 (0.0%)	10 人 (100%)	0 人 (0.0%)
（主な就職、業界等） 電気工事会社 警備会社（通信関係） 設備工事会社等			
（就職指導内容） 定期的に関係企業のセミナーを開き、概要を説明いただいている。その上で学生一人ひとりの希望就職先を調査し、進路指導担当者および担任を中心に会社訪問や面接試験等の指導を繰り返し行っている。また、職業実践専門課程において協力いただいている企業に直接現場で講義を受け、より具体的に職務内容が理解できるよう努めている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 工事担任者「総合通信」、第三種電気主任技術者、第一種電気工事士 第二種電気工事士、第二級陸上特殊無線技士、高所作業車運転者 2級電気工事施工管理技術検定、アーク溶接技能、小型車両系建設機械技能 小型移動式クレーン技能、消防設備士(甲種4類等)、低圧電気取扱業務 酸素欠乏・硫化水素危険作業、石綿作業従事者			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12 人	0 人	0.0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 中退防止については、素行・態度等の変化を早めに察知し、声掛け・面談・家庭連絡を密に実施している。また、クラスの状況や学生の状況は職員会議にて共有し、担任・学科長およびその他教員が連携し、組織的に対応している。 中退者支援については、経済的問題で退学又は進学を断念せざるを得ない場合の就職斡旋している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
自動車整備科 1級自動車整備士コース	200,000円	620,000円	380,000円	実習費・施設費 350,000円 休学者在籍料 30,000円(年額) ただし休学中は授業料等の学費は徴収しない
自動車整備科 2級自動車整備士コース	200,000円	620,000円	380,000円	実習費・施設費 350,000円 休学者在籍料 30,000円(年額) ただし休学中は授業料等の学費は徴収しない
自動車車体整備科	100,000円	620,000円	380,000円	実習費・施設費 350,000円 休学者在籍料 30,000円(年額) ただし休学中は授業料等の学費は徴収しない
電気・通信施工学科	100,000円	560,000円	380,000円	実習費・施設費 350,000円 休学者在籍料 30,000円(年額) ただし休学中は授業料等の学費は徴収しない
修学支援 (任意記載事項)				
<ul style="list-style-type: none"> ・本校入学試験において、指定校推薦合格者は入学金5万円免除 ・入学者本人が古沢学園姉妹校の在籍者・卒業者または自主都合で退学した者の場合、入学金を全額免除 (要申請) ・入学者の家族・親戚が古沢学園姉妹校の在籍者または卒業者の場合、入学金5万円免除 (要申請) ・第一種または第二種電気工事士有資格者は入学金免除 (電気・通信施工学科入学者対象 要申請) 				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校 ホームページ → 情報公開 下記URLから閲覧可能 http://www.furusawa.com/kogaku/disclosure/
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校運営に関係する企業等および保護者・卒業性等の参画による学校関係者評価委員会を設置する。昨年は新型コロナウイルス感染症対策のため「自己点検・自己評価」を基に聞き取りおよびアンケート調査にて実施。
①主な評価項目 <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・目標 職業教育の特色は何か、社会のニーズを踏まえた将来構想を抱いているか等 ・学校運営 目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか等 ・教育活動 教育課程の編成・方針等が策定されているか、教育方法の工夫・開発が実施されているか、教職員の指導力や資質向上に努めているか等

- ・学習成果
資格取得・就職率の向上が図られているか等
- ・学生支援
進路・就職、健康管理、各相談に関する体制は整備されているか。保護者及び高等学校との連携が適切か等
- ・教育環境
施設・設備は教育に十分対応できるか。インターンシップ等について体制を整備しているか等
- ・学生の受け入れ募集
募集活動は適正に行われているか
- ・財務
中長期的に学校の財務基盤は安定しているか
- ・法令の遵守
法令及び設置基準が遵守され、適正な運営がなされているか等

②評価委員会の構成（委員の定員、委員選出の区分（企業、保護者、卒業生等）

- ・委員の定員
 - ①業界団体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体の役職員
 - ②専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者
 - ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

以上を定め委員会を構成している。

- ・委員選出の区分
設置学科関連企業等の役員 1 名以上
一般社団法人広島県自動車整備振興会 指導部部长

認定学科関連企業等から 1 名以上
電気・通信施工学科 伍永通信株式会社 代表取締役
自動車整備科 トヨタカローラ広島株式会社 部長

在校生保護者から 1 名以上 自動車整備科 2 級自動車整備士コース 在校生保護者

卒業生から 1 名以上 1992 年度 自動車整備工学科 卒業生

③評価結果の活用方法

自己点検・評価結果に基づいて教育目標・教育環境など学校運営についての評価や意見を委員より頂き、学校運営の全般について改善および発展に反映させる。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人 広島県自動車整備振興会	2021. 4. 1～2023. 3. 31	企業等委員
トヨタカローラ広島株式会社	2021. 4. 1～2023. 3. 31	企業等委員
伍永通信株式会社	2021. 4. 1～2023. 3. 31	企業等委員
広島工学院大学校 在校生保護者	2022. 4. 1～2023. 3. 31	P T A
岡田自動車株式会社	2022. 4. 1～2023. 3. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校 ホームページ → 情報公開 下記URLから閲覧可能 http://www.furusawa.com/kogaku/disclosure/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校 ホームページ → 情報公開 下記URLから閲覧可能 http://www.furusawa.com/kogaku/disclosure/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	専門学校 広島工学院大学校
設置者名	学校法人 古沢学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		-	-	-
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				-人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。